

次世代に住みやすい環境を残すために



地球の温暖化について

熊本県地球温暖化防止活動推進員 平 晋一郎

昨年11月号で地球温暖化による海面上昇の一つの原因である海水の膨張について述べましたが、もう一つのおもな原因である氷河の融解について概略考えてみたいと思います。

地球の長い歴史の中で大きな氷河期が3回やって来ています。そのうち最後の氷河期は約二百万年程前から一百万年まで続きました。その後海面が急激に上昇し六千〜四千五百年前頃、つまり日本の縄文時代頃は現在より3〜4メートル高かったといわれています。

本町の若園貝塚や天水町の尾田貝塚がそれを物語っています。

地質時代の氷河期のことは別として、現在地球上で問題になっているのは、人間の生活活動で地球の気圏・水圏が温暖化しているということですから、自分達で何とか防止するほかありません。

さて地球上には一体どれくらい

氷が有るかというのと、まず頭にうかぶのは南極、グリーンランド、ヒマラヤ、アルプスなどです。氷に覆われているのは陸地の10パーセント程度です（「理科年表」参照）。ここでちょっと注意しなければなら

ないのは、北極にも沢山の氷が存在します。しかしこれは海洋に氷が浮いた状態になっているので、もし氷が全部解けたとしても海面上昇には関係ありません。氷は水より密度が小さいので、アルキメデスの原理に従って海面に頭を出しています。解けてしまえば元の密度・体積に戻りますので、北極グマや北極キツネなどは困るかもしれませんが海面は上昇しません。

陸地を覆っている氷の面積は1634万平方キロ、氷の密度は0.917ですが氷河は積雪が圧縮されたものだから、空気が閉じ込められているのでその密度は

0.83と仮定します。氷河の平均の厚さを1キロとすると、それが全部解けた時の水の量は1356万立方キロ、これを全海洋面積（3億6200万平方キロ）で割ると（面積の数値は「理科年表」による）37.5メートル海面上昇ということになります。

ところで氷が解けるためには1グラムについて80カロリーの融解熱を必要とします。現在の氷河が全部解けるためには膨大なエネルギーを必要とします。仮に氷河の表面から1メートルの厚さまで解けたとすると、海面の上昇は3.75センチになります。以上は氷河の融解についてのみ考えましたが、前にも述べたように海水の膨張や地殻変動や蒸発量などなど無数の要因を統合してIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の



第三次報告書では2001年〜2100年の100年間で9〜88センチメートル上昇すると予測しています。予測の値の幅が大きいということは、予測の計算が大変困難であることを示しています。

◆ 路線バスについてのお知らせ!! ◆



現在、路線バスは、通勤、通学、通院、買い物等の地域住民の日常生活を支える公共交通機関として非常に重要な役割をはたしています。少子高齢化が進む中で、地域住民の生活を支える交通として、バス交通の役割は今後ますます重要になってくると考えられます。

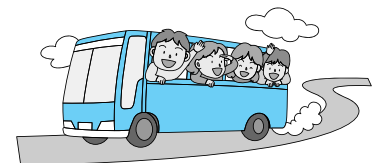
しかし、現在バスの利用状況は自動車等の普及によりバス離れが生じ、年々利用者が減少しています。その結果、路線バスの赤字が増加傾向にあり事業者や町にとっても厳しい状況にあります。

このまま利用者が減少すれば路線の廃止になりかねません。しかし自ら移動手段を持たない高齢者や児童などのいわゆる交通

弱者と呼ばれる人達にとって路線バスは必要不可欠な役割を果たしています。このことから路線の廃止はなるべく避けたいところです。

◆ 路線バスの積極的な利用をお願いします!!

	路 線 名	平日	土曜	日・祝
1	植木1丁目～江田経由～南関上町	9便	9便	8便
2	山鹿B S～東郷農協前経由～玉名駅前	6便	4便	5便
3	山鹿B S～下津原経由～玉名駅前	2便	2便	2便
4	山鹿B S～米の岳農協前経由～玉名駅前	8便	8便	6便
5	玉名駅前～月田経由～江田	3便	2便	3便
6	交通センター～江田～南関上町	6便	6便	6便
7	山鹿市役所～板楠経由～南関ターミナル	9便	9便	8便
8	山鹿市役所～三加和温泉経由～瀬高駅	8便	7便	7便



■ 年度別地方バス補助

(単位：千円)

